

(2) プログラム全体の特色

1 参加型学習プログラムです

このプログラムは「参加型学習プログラム」です。単に「講義を聴く」というプログラムではありません。

ファシリテーター（学習活動を支援し促進する人（後述））が、学習者が安心して意見が言え、落ち着いて人の意見を聞けるように、アクティビティ（学習活動）を進行していきます。そのなかで、学習者は自分にとって必要な知恵や技術などに自ら気づき、自ら学び取っていくことができます。

参加者みんなの力で、自分に合った答を見つけていく—それが、参加型の学習プログラムです。

2 学習の流れ

その学習活動は、プログラムごとに異なりますが、概ね次のような流れで展開されます。

導入：①アイスブレイク（雰囲気作りのゲームなど（後述））で、初対面の人同士でも打ち解けられるような雰囲気を作ります。

②どの家でもありそうな身近なエピソードや4コママンガを読んだり、実際に体を使うアクティビティを体験して、各自設問に記入し、問題意識を共有します。

展開：各自が記入した意見をお互いに出し合うなかで、「そんなやり方（考え方）もあるんだ！」と新たな発見をしたり、「私と同じやり方（考え方）の人もいるんだ！」と自信（自己肯定感）を得たりしながら、まなび合う。

まとめ：学習のなかで感じた「気づき」などを「学習のふりかえり」に記入し、相互に発表し合うことで、考えを深める。併せて、学習のなかで知り合った人たちとの人間関係を深め、お互い悩みを相談し合える関係を作る。

個々のユニットの「学習の流れ」については、後掲していますので、御覧ください。（これはあくまで一つの「学習の展開例」です。自由に変えてもらって構いません。）

3 プログラムの使い方

①プログラムは、8年齢層で3ユニットずつ、計24ユニットで構成されています。

②それぞれの年齢層の3ユニットは、「その1～3」というふうに、3回の連続講座用としても使えますが、場合によっては「その1」のみ、「その3」のみといった具合に、単独プログラムとしても使えます。

③また、年齢層もあくまで「主な学習対象者」なので、場合によっては違う年齢層で行ってもよいし、「中学生と妊娠期の方」「青少年自身と青少年の親」「乳児の親と中高年の支援者」など、異世代間の学習者を組み合わせることによって、さらに双方の学習効果が高まる場合もあります。

④このように、取り上げ方自由、組み合わせ方自由というのも、このプログラムの特色です。

⑤状況に応じて、自由な発想で、このプログラムを活用してください。